辻博士は本年春御母親の喜壽を慶せられ、その記念のために人物論に關する舊稿二七を選擇して刊行せられたのが本書である。聖德太子、傅敎大師、明慧上人、親鸞、日蓮の如き代表的な宗敎關係者、花園天皇、平淸盛、源頼朝、織田信長、豐臣秀吉、德川家康、片桐且元、柳澤吉保、竹內式部の如き英主及び偉大なる政治家を中心にして其の時代を論究したものであつて、如此多數のしかも政敎兩方面の劃期的な人物に關する所論であるから、人物論とは言へ、或る意味に於て人物中心の日本史とも言ひ得、政敎交涉史とも見る事が出來る。殊に四十七葉の關係史料が挿入圖版として隨所に配置されてある事は讀者をして倦怠を感ずる事なく卷末まで讀了さすものである。とりわけてそれらの圖版が何れもあまり世間に知られて居ない稀覯のものである事はさすがに博士の論著であると首肯さるゝであらう。（菊版三九六頁、雄山閣發行、價、四〇〇）〔以上中村〕

●近世農村問題史論

經濟學博士　本庄榮治郎著

著者が昨夏京都帝國大學にて講ぜられた稿本を出版されたものである。例によつて博引傍搜、江戸時代に於ける農村問題を論究して餘蘊がない、四六版三二九頁、校正甚だ行き屆いて印刷も實に手に入つたものだ、農村問題の意義と近世農村問題の特質とを始終にして、農業土地租稅制度、農民政策、農民の生活、人口の減退及勞力の欠乏、田地の兼併及荒廢、小作制度及び小作問題、救荒政策、農民暴動等を論じてある。近世の經濟史に於ける博士の造詣については世既に定評のある所、吾人亦これに啓發せらるゝ處が多いが、たゞ德川時代に於ける農民への干涉が悉く階級的專制政治を維持せんが爲に、恰も人間を牛馬の樣に取扱つてゐることのみから出でゝゐる如く說いて居られるのは如何か。成程當時の農本主義は農業本位主義であり、貴農思想は貴穀思想であらうが、併しながら、一面治者階級としての武人は、民はかくあるべきものだと信ぜしために、かくの如きことまで敎ふべきものだと考へてゐたのではあるまいか。卽ち彼等の心の奧には民を治むることは民を敎ふることだといふ考

が強く働いて、それ等の干渉政策もその教化誘導といふ理想主義的見地から出でたのではあるまいか。是は事些細に似て些細ならざる問題であらう。（四六版三二九頁、改造社發行、價二・三〇）〔德重〕

◉特選神名牒　　內務省藏版

本書は明治初年政府が各府縣に命じて其管內諸神社の祭神由緒社格等についての詳細なる調査を爲さしめて編纂したものであつて、編纂の大規模であつた事、衆智を集めて考證研覈せしめた點に於て此種の典籍中比類を見ないものである。然るに編纂以來永らく內務省に祕藏せられて容易に閲讀を聽されなかつたことは識者の少からず遺憾としたところであつたが此度初めて出版して世に公にされるに至つたのは喜ばしい事である。記述の體裁は先づ宮中の諸神に始まり次に京中座、同京四條座神を掲げ、それより山城國以下各國に分ちて諸社の祭神祭日社格所在等を記載してある。殊に編纂當時所在不明或は社地堙埋の分をも出來るだけ搜索檢覈して掲載してある

ことから神社に關する研究者にとつては無比の參考資料である。唯だ本書の原本であつた內務省本は先年の大震火災の際烏有に歸した爲め五八〇頁以下は校正に不充分な箇所が少くないさうであるがこれは已むを得ない事であり、且つ本書の編纂以來殆んど五十年を經過し其間に神祇神道の研究も著しい進歩を來したから今日より見れば本書にも種々不十分な點が有るのを免れないのは固よりのことである。併し乍ら斯かる貴重書が幸に大震災の爲めに原本が燒失したに拘はらず斯く世に出る事となつたのは神社研究者にとつて此上ない幸福と云はねばならぬ。（菊版八四七頁、東京磯部甲陽堂發行、價一〇圓）

◉尾張國解文

本書は一條天皇の永祚元年尾張國の郡司百姓等が國守藤原元命の非違三十一條を擧げて官府に愁訴した解文の名古屋市眞福寺寶生院所藏に係る正中二年古鈔本を精巧なる玻璃版に附して複製したものであつて、右原本は現存する解文中の最古の寫本として夙に學界の注意を惹